泰花

日野市立日野第四中学校　学校便り
令和５年３月２４日発行
校　長　　生　野　武　夫
〒191-0065　東京都日野市旭が丘２－４２
℡042-583 -3905　fax042-583-3915

「別れと出会い」

校　長　　生　野　武　夫

正門の桜もほころび、いよいよ春本番を迎えます。３月１７日（金）、３年生２１２名は義務教育を終了し、それぞれの道に巣立っていきました。厳粛な空気の中で、卒業証書を手にし、別れの合唱では涙に声をふるわせながらも素晴らしい歌声が体育館に響き渡りました。

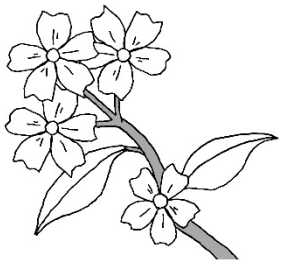
そして本日の修了式から２年生が最高学年として四中の中心に立ち、１年生は後輩となる新入生を迎えます。今までは上級生たちの背中を見ながら学校生活を送ってきましたが、４月からは範を示していかなければならない立場になります。新２年生、新３年生として期待されることが大きくなりますが、その期待に応えることが誇りでもあります。四中をよりよい方向に牽引して行っているという自負を全員がもってもらいたいと思います。

さて、今日で令和４年度が終わろうとしています。年度末と年度初めは「別れと出会い」の時期です。一般社会でもこの時期、別れを惜しみ、新たな出会いがあります。学校も同じように先生達や友達との別れがあり、新しい出会いが待っています。

１・２年生は４月にはクラスが替わり、今の仲間ともお別れです。色々あったけれどもお互いに「ありがとう」と言い合える別れであって欲しいと思います。そして、お世話になった人たちに、素直に感謝の気持ちを表せる人になって欲しいと思います。

４月は新しい出会いの時です。新しい環境の中で新しい人間関係を築き上げるときです。新しい環境の中では緊張や不安もありますが、出会いを大切にするとは、互いの良さを見つけて積極的に関わろうとすることだと思います。また、相手の良さを見つけるためには、まず自分の心を開くことも大切なことだと思います。年度末と年度初めは別れと出会いの時です。「感謝の気持ち」と「出会いを大切にする気持ち」で、豊かな人間関係を築きあげて欲しいと願っています。

在職中はコロナ禍での学校生活でしたが生徒の皆さんは活動が制限される中、できることを工夫し改善しながら取り組んでくれました。そして今年度は、泰花祭体育の部・合唱の部を３学年一緒に実施することができ、３年生の皆さんは立派に行事に取り組む姿勢や思いを１・２年生に伝えてくれました。１・２年生の皆さんはしっかり受け止め、次へとつないで欲しいと思います。それが四中の伝統として受け継がれていくのです。生徒の皆さん、四中スローガンの『学び』と『思いやり』を忘れずに、大いに学校生活を過ごしてください。



保護者・地域の皆様には、本校教育活動及び新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐための様々な取り組みについてご理解、ご協力をいただきありがとうございました。 引き続き四中の教育活動にご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

第50回卒業式

３月１７日（金）に本校５０回目の卒業式を行いました。当日は雨も心配されましたが、天候もよく、無事に終えることができました。卒業式には、生徒は卒業生と在校生の代表生徒のみの参列だったため、卒業生の門出を全校生徒でお祝いすることはできませんでしたが、卒業生全員で立派な式をつくりました。

担任の先生からの最後の呼名、代表生徒による別れの言葉、卒業生全員による心のこもった素晴らしい合唱、式中の態度、どれをとっても３年間の学びの成果が発揮された素晴らしいものでした。少ない人数ではありましたが、在校生の代表生徒にとって、自分たちもこういった卒業式にしたいと思わせてくれた卒業式でした。

また、３年生が素晴らしい卒業式を迎える前日には、在校生全員による卒業式準備を行いました。体育館などはもちろん、３年生の教室や廊下など在校生全員で、式には参列できなくてもお祝いの思いがしっかりと伝わるような準備でした。

球技大会･レク大会

３月２２日（水）２年生は球技大会、１年生は学年レク大会を行いました。２年生はドッヂボールとバレーボールに分かれ、クラスマッチで行いました。さすがに２年生となると運動能力も上がり、白熱した展開で盛り上がりました。２年生はその後、４月に行った学年全体での大縄跳びの記録を超えるべくチャレンジを行い、見事に記録更新し、１年間の運動能力だけでなく、団結力の成果も発揮できました。

１年生は学年全体でクイズなどの合同レクを行いました。学校にまつわるクイズを実行委員が考え、各クラスの班ごとに楽しく解きました。先生方の発表もあり、笑顔で全体レクを締めくくりました。

保護者の皆様

１年間本校の教育活動にご理解・ご協力いただき、誠に感謝申し上げます。来年度も生徒と共に成長できる学校でありたいと考えております。ご協力お願いいたします。

お問い合わせ　日野市立日野第四中学校
副校長　小村英樹　電話番号 042-583-3905

【卒業生代表の言葉】
　日に日に暖かさが増し、春の訪れを感じる季節となりました。三年間は、あっという間に過ぎ、私たちは今日、卒業式を迎えています。
私たちの中学校生活は、いろんなことがありました。そんな三年間を一ページずつ、振り返っていきましょう。

桜舞う四月、私たちは日野第四中学校に入学しました。小学校を卒業した喜びも束の間、中学生になるということに緊張したことを覚えています。入学式の前日の夜は、不安と期待で胸がいっぱいで、あまり眠れませんでした。
少し大きな制服を身にまとい、慣れないネクタイを締め、校門をくぐりました。
入学式で生徒会長が、希望あふれる言葉を投げかけてくれました。その姿は、とても大人に見えて、私の憧れでした。「こんな三年生になりたい。」それが中学校に入って一番初めに持った目標でした。

二週間前まで小学生だった私たちは、ピンク色に染まった景色の中での入学式を迎え、中学校生活をスタートさせました。初めて着る制服に少し違和感を覚えながら、慣れない制服は、中学生の一員ということを表しているようで、嬉しかったです。
中学校に入ってすぐ分散登校が始まり、新しいクラスの友達と会えないまま、三か月が過ぎました。それでも、新しい環境に希望を抱き、様々なことに全力で取り組みました。初めての定期テスト。小学校までのテストとは違い、難しく、どうやって勉強すればいいのか、わかりませんでした。初めての委員会、初めての部活。大きく見える先輩の背中を追い、自分もああなりたいと思いました。初めての行事。とにかく楽しみました。上手くいかないこともあったけれど、仲間がいたから何事にも、全力で挑戦する勇気をもらえました。たくさんの「初めて」を新しい仲間と新しい出会いの中で、築いていこうと思いました。

初めての泰花祭合唱の部。小学校の頃のように学年全体で歌うのではなく、クラスごとに歌う中学校の合唱。はじめは不安でいっぱいでした。パートごとの練習、クラスでの合唱練習。リーダーのみんなが頑張っているのに、歌うのが恥ずかしくて、大きな声で歌うのをためらいました。どのクラスも、まとまりがあるとは言えず、クラス全員で協力して、一つの歌を作り上げるのは、難しく感じました。　しかし、練習をしていく中でみんなの心に、ある変化が生まれました。「金賞を取りたい。一つの歌を作りたい。」そう思ってからは、必死に練習しました。
迎えた当日。本番前の練習を終えた時に、みんなの心は一つになっていました。出番が近づくにつれ、大きくなる緊張と不安。しかし、歌い始めた瞬間、緊張や不安は全て吹き飛んでいました。「金賞をとりたい。一つの歌を作りたい。」その気持ちが、僕らを結び付け、みんなの合唱を作り上げることができました。今でもあの時の気持ちを忘れていません。仲間とともに、一つの歌を作り上げることの喜びを。
　二年生になり、部活動や委員会は自分たちが中心となって進めていく機会が多くなりました。先輩がいなくなったこと、後輩ができたことに不安や焦りを感じるようになりました。後輩ができたことで、「責任」という言葉を意識するようになりました。
しかし、何をどうすればいいのかわからない、コミュニケーションが上手くとれない、順風満帆に

は進みませんでした。誰か一人でも不安な気持ち抱えている人がいたら、みんなで話し合いました。それぞれが思っていることを、素直に伝えあい泣いたこともあります。一緒に頑張る仲間だからこそ、一人一人が他のみんなを大事にしてきました。心強くて、勇気をくれて、一緒に励まし合えて、心の支えになる。仲間はそんなかけがえのない存在です。

一年間の延期を経て、ようやく出発することができたスキー教室。待ち遠しく、期待やワクワクが大きかったです。スキー教室のスローガンは、「絆の結晶　肌で感じる雄大な自然」自然の厳しさ、雄大さを三日間で味わうことができました。
スキーをするのが初めて、苦手という人もいたと思います。ですが、三日間、九時間半の講習の中で、多くの人が滑れるようになりました。いつもの学校と変わらない顔ぶれなのに、なぜかドキドキして眠れない夜。部屋で友達と横になり話すのも楽しみだった。食事や入浴の時間に間に合うように、バタバタするのも何かいい。吹雪の中滑ったこと、急に止まってみんなで転んだこと、同じ部屋の友達と沢山笑ったこと、手足がかじかんで動かなかったこと。スキー教室でしか味わえないことを、たくさん経験できました。色とりどりでバラバラだった絆が、大きな一つの絆になりました。

四月、いよいよ三年生になりました。三年生になったと、実感がわかないまま
スタートしたのではないでしょうか。最高学年として、後輩のサポートをすること、後輩を引っ張っていくことは、難しいことでした。勉強や部活を、両立することに必死で、忙しい毎日が過ぎていきました。そんな時間は、楽しく、時に辛いこともありました。しかし、この楽しくまた大変だった経験があるからこそ、今ここにいることができます。最高の学年を作ることができたのは、最高の仲間がいたからです。

　最後の泰花祭体育の部は、中学校三年間の中で一番印象に残っている行事であり、最高の思い出です。運動が得意な人も苦手な人も、クラスが一丸となって戦った最高の行事です。特に、全員リレーは心に残る競技になりました。バトンを繋ぎゴールまで運ぶ、途中でミスもあったけれど、最後まで走り抜きました。それはまるで、僕たちの中学校三年間を表しているような気がします。失敗をしても諦めず、協力することで、次につながることを、体育の部を通して、学ぶことができました。これから先も色々なことに挑戦し、全力で駆け抜けていきましょう。

三年ぶりに行くことになった京都、奈良への修学旅行。
行けることが決まった瞬間の喜びは、今でも鮮明に覚えています。班行動の計画を自分たちで考えるのは初めてでした。自分たちでどこに行くのか、どうやって行くのか、何を食べるのか、そんなことを考えていると、ワクワクしました。
木の根元に寝ている鹿。静かで時間が止まっているように見えた銀閣寺。京都の残暑の中食べたかき氷。用水路にいた小さなカエル。そんなことを、宿に戻って友達と話すことが、楽しみでした。二泊三日という長いような時間も、僕たちにとっては、本当に一瞬でした。
　楽しかった修学旅行が終わり、僕たちには受験が近づいてきていました。

この一年、私たちは「受験」という大きな壁と向き合ってきました。本番で良い結果が出せるように、ただひたすら努力してきました。時には、「本当に大丈夫だろうか」と不安になってしまうこともあり、逃げ出したくなることもありました。みなさんの中には、希望する進路に決まった人もいれば、あと一歩届かなかった人もいると思います。それでも、私たちが今まで頑張ってきた事は、かけがえのない物となり、人生の財産になります。これからの人生で、悩む事や大きな壁にぶつかる事があるかもしれません。しかし、今回の経験がきっと私たちを後押ししてくれるでしょう。

私たちが過ごしてきた中学校三年間には、たくさんの嬉しいことや悲しいがありました。私たちのそばにいて、私たちの一番の味方でいてくれて、見守ってくれた家族。時には、間違った道に進もうとしている私たちを、叱って正しい道に戻してくれた。
中学生になって、「ありがとう。」「ごめんなさい。」が素直に言えず、家族とケンカしてしまったことが沢山ありました。今思うと、なんで素直に言えなかったんだろうと、後悔しています。
　私が悩んでいるときは、真剣に心配してくれて、行事がある時は、私の一番の応援団になってくれました。進路が決まった時は、自分以上に喜んでくれました。そんな家族に、今までの想いをこの一言にのせます。「ありがとう。」そして、これからもずっとずっと、よろしくお願いします。

中学校生活の中で、嬉しい時、辛い時、悲しい時、楽しい時、僕の隣にはいつも友達がいました。体育の部や、合唱の部のような行事を成功させることができたのは、友達がいたからです。中学校でできた友達は、僕にとって、とても大切な存在になりました。大切な友達と離れ離れになってしまう生活は、正直今はあまり想像ができません。もっとたくさん話したい。もっと一緒にいろんなことを楽しみたい。そう思ってしまいます。僕たちはこれから新たな環境で、新たな人間関係を築いていくことになります。新たな環境でもいろんなことに挑戦することができると思います。なぜなら、僕たちには、中学校でできた大切な仲間がいるからです。
　卒業式が近づいてきても、僕はまだ中学校を卒業するという実感がなかなかわきませんでした。僕にとって、中学校で過ごした三年間は、かけがえのないものになりました。この三年間を振り返ると、いろいろな思い出が甦ってきます。
今日、９年間の義務教育を終え、僕たちは中学校を卒業します。これから夢や目標に向かってそれぞれの道を歩んでいく中で、色々な壁にぶつかることもあるでしょう。しかし、みなさんは一人ではありません。中学校三年間でみなさんを支えてくれた友達や家族、先生や見えないところで、僕たちを見守って下さった様々な方がいます。また新しい環境での新たな出会いもたくさんあると思います。辛い時や悲しい時には、きっとその大切な人たちや大切な仲間が、僕たちを支えてくれると思います。
自分の可能性を信じ、明るい未来に進んでいきましょう。
遠くで　ともる未来
もしも僕らが離れても
それぞれ歩いていく　その先で
また出会えると信じて
令和五年　三月十七日　卒業生代表
加藤灯莉　福家直槻　山﨑莉奈　森晴紀　木幡光　楠田乃愛　＜敬称略＞